

Q1. 何の薬を開発している会社ですか？



コスモ・バイオは開発型会社ではありません。

コスモ・バイオは、

『**バイオ（ライフサイエンス）の研究を支援する専門商社**』

です。

※一部、自社品開発をしております（後述）

バイオ関連の開発を行う製薬企業やベンチャー企業などは、
当社の「お客様」にあたります。

よくあるご質問 Q1.何の薬を開発している会社ですか？

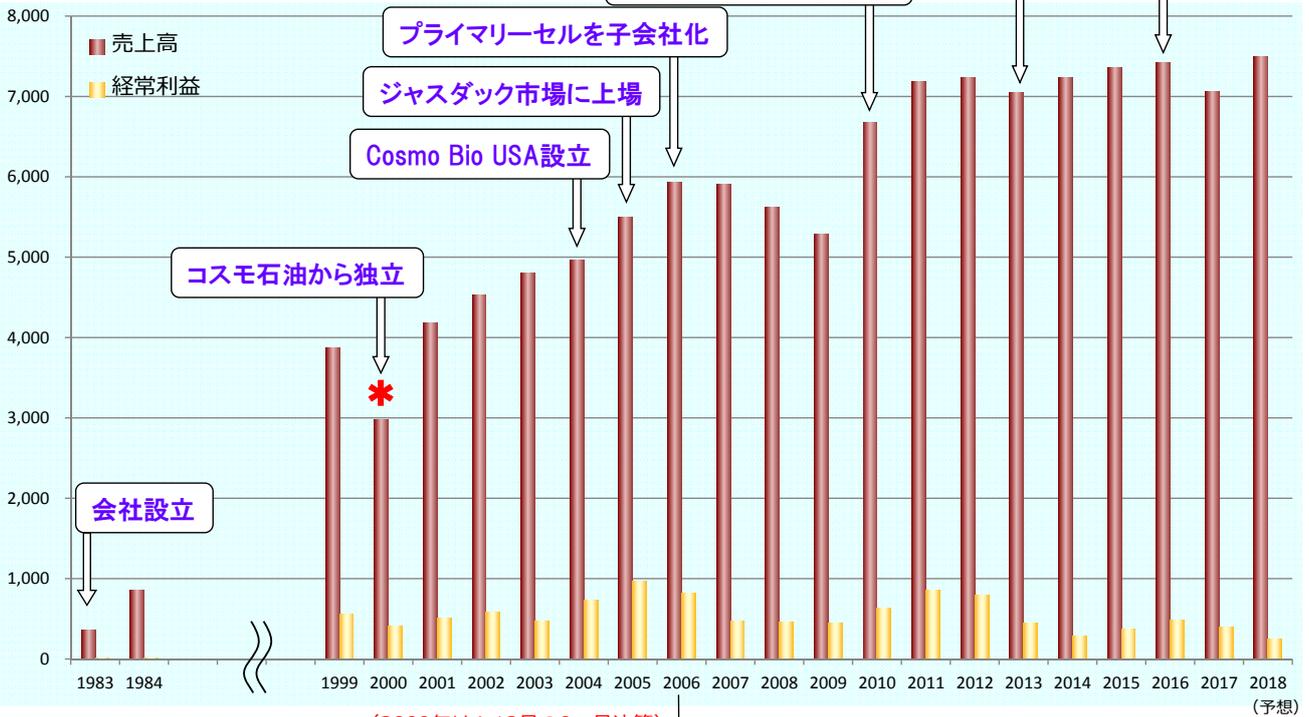
会社概要

社名：	コスモ・バイオ株式会社	
本社所在地：	東京都江東区東陽二丁目2番20号	
代表者：	代表取締役社長 櫻井 治久	
設立：	1983年8月25日	
資本金：	918百万円	
事業内容：	ライフサイエンスに関する研究用試薬、機器、 臨床検査薬の仕入(一部自社製造)及び国内・海外販売	
従業員数：	連結：125名 個別：98名 (2017年12月31日時点)	
連結子会社：	ビーエム機器株式会社 COSMO BIO USA, INC. (2018年より連結開始)	
非連結子会社：	株式会社プロテインテック・ジャパン	

よくあるご質問 Q1.何の薬を開発している会社ですか？

当社の歩み

(単位：百万円)



Q2. 何を売っている会社ですか？



**バイオ（ライフサイエンス）研究の実験に使う薬品（＝試薬）や
道具（機器・器材）を販売しています。**

試薬

培地、緩衝液など

機器

小型実験機器

試薬

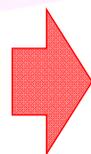
キット（試薬セット）

試薬

抗体・生理活性物質など

試薬・機器の一例をブースで展示・紹介しています

Q3. iPS細胞とどう関係あるのですか？



iPS細胞研究の実験に使う薬品（=試薬）を販売しています。

つまり・・・

iPS細胞の研究をされる研究者は、当社のお客様です。

主な取り扱い商品

iPS細胞
培養用培地

iPS細胞
保存液

iPS細胞を
作製するための
試薬

iPS細胞を
他の細胞に
分化させる
ための試薬

など

※コスモ・バイオが販売しているのは、
iPS細胞研究用の試薬だけではありません。

2. 事業内容と特徴

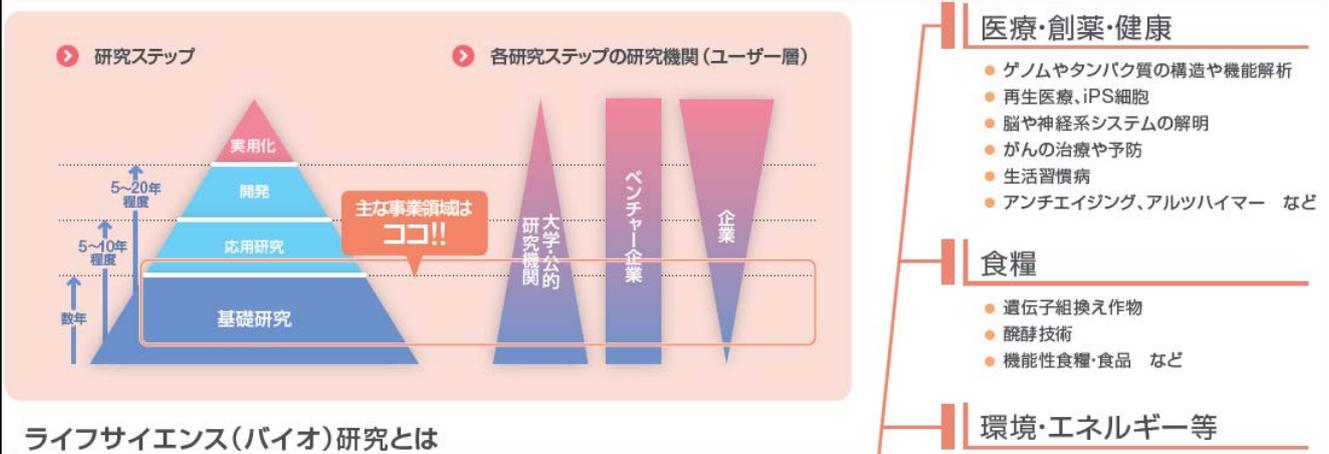
www.cosmobio.co.jp

事業の内容 – 商流 –

研究者と仕入先を結ぶ
コスモ・バイオ



事業の内容 – 事業領域とユーザー層 –



ライフサイエンス(バイオ)研究とは

バイオ研究は分子構造解析、シグナル伝達解析、タンパク質解析などの「基礎研究」から始まり、その成果を実用化するための「応用研究」、製品化に向けた「開発」の大きく3段階に分類されます。当社では「基礎研究」段階を中心に、幅広い領域を支援しております。

事業の内容 – ユーザーの研究資金 –

大学

公的研究機関

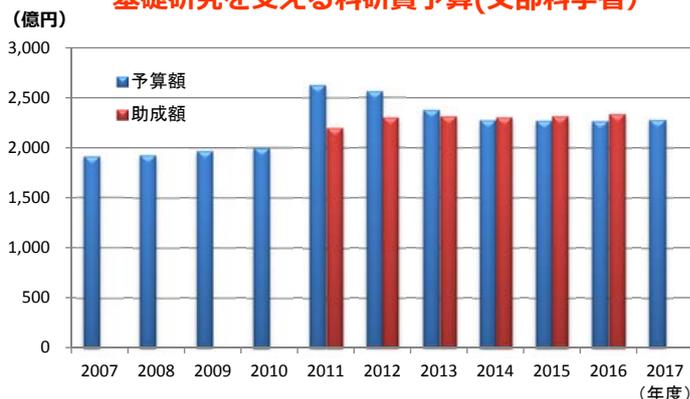
理化学研究所(文科省)
産業総合研究所(経産省)
医薬基盤・健康・栄養研究所(厚労省)
...

●国から提供される

- 運営交付金
- 競争的資金(例: 文部科学省の科研費)

などの資金をもとに研究活動を行う。

基礎研究を支える科研費予算(文部科学省)



企業

製薬会社、食品会社、化粧品会社、ベンチャー企業、...

●各企業の事業計画や開発プランなどに基づき、**基礎研究**にどのくらい「投資」するかの予算が組まれ、その資金をもとに研究活動を行う。



事業の内容 – 商社機能・メーカー機能 –

商社機能

世界中の約**600**社の仕入先



世界各地にある最先端の商品を導入し、「分かりやすさ」「安心・安全」を付加価値として研究者の皆様へ提供

メーカー機能



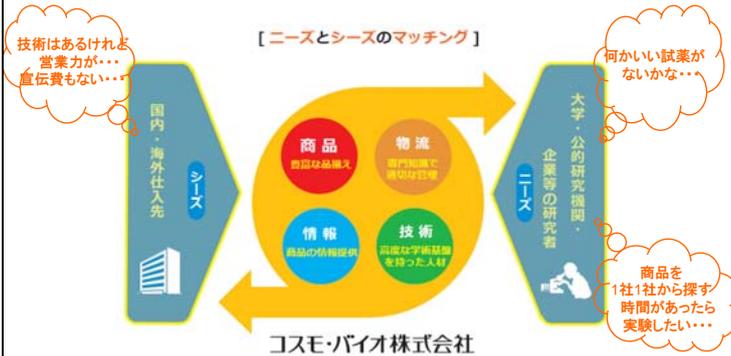
札幌事業部にて
自社品の開発・製造
自社受託サービスの提供

商品提供で充足できないニーズに対し、自ら作る、サービスを提供することでソリューションを提供

研究者に最新の商品とサービスでソリューションを提供

●膨大な商品と多彩なユーザーニーズの「マッチング」

世界のメーカーから仕入れる膨大な商品ラインアップ（＝シーズ）の中から、研究者にとって有用な商品（＝ニーズ）を選び出し、タイムリーにお届けする。商品とユーザーの「マッチング」こそが、最も重要な私たちの役割であり真髄。これを実現させ、商品購入前のお問い合わせから購入後のフォローまで、迅速かつ丁寧に対応。



●適切な温度管理

試薬の多くは、タンパク質や核酸・細胞など、生物由来の物質、いわゆるナマモノであり、仕入から保管、お届けまで厳重な温度管理が必要。各種温度帯を備えた倉庫、入出荷ノウハウにより、適切な温度管理で商品をお届け。



●関係法令・規制

◆動物検疫

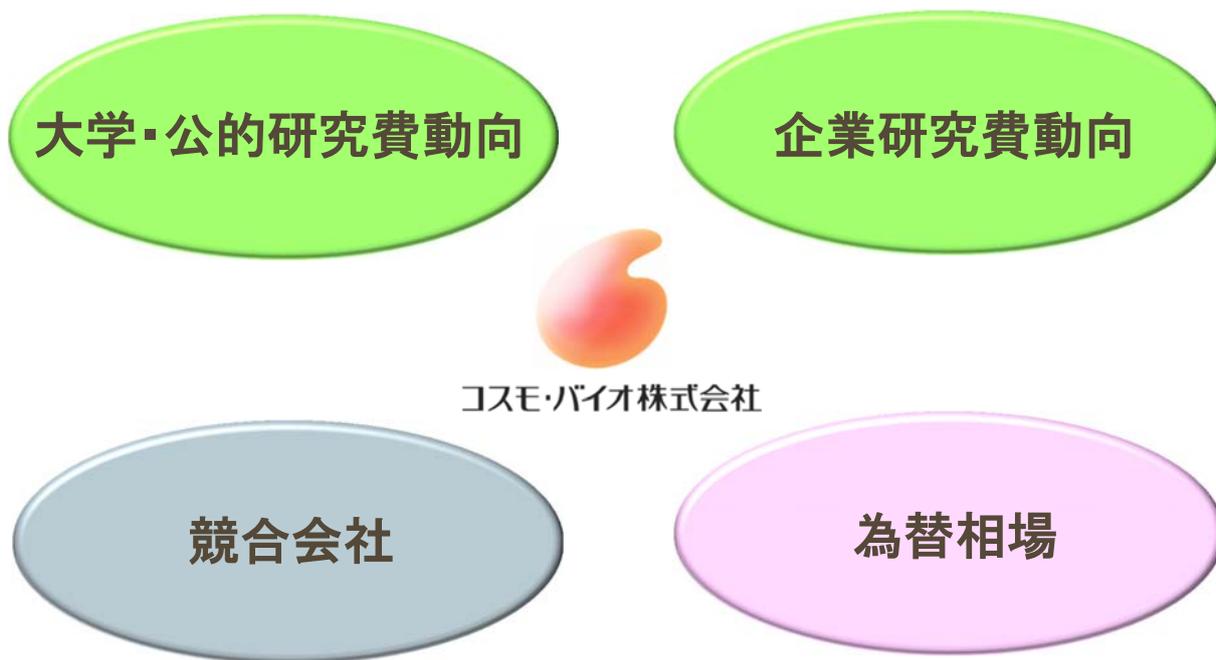
商品が動物由来、もしくは動物由来の成分を含む場合、輸入・輸出の際には動物検疫対象となる。専門知識により、迅速に対応。

◆使用・保管への注意

商品には、毒劇物・薬物・危険物・遺伝子組換え物質等の、法律で取扱いが厳しく定められているもの、有機溶媒など廃棄規制があるものがあり、商品取扱いに関する情報も適切に提供。

3. 事業環境

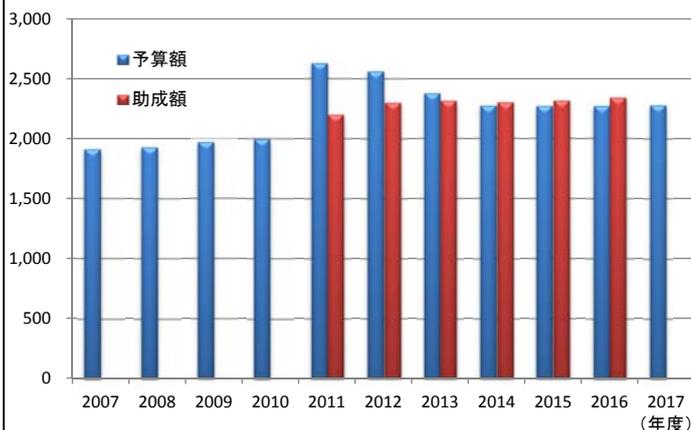
当社を取巻く環境



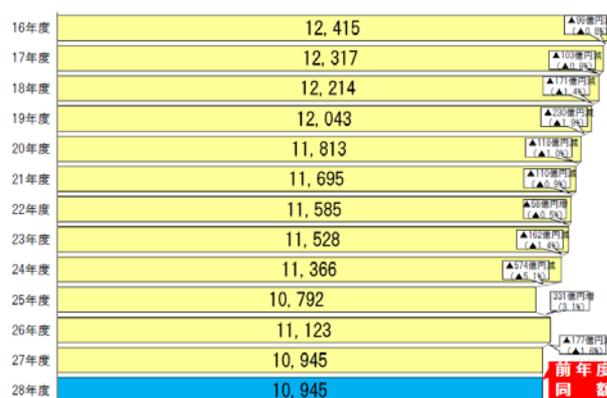
大学・公的研究費動向

2017年度政府予算案のうち、バイオテクノロジー関連予算は2016年度予算比1.7%増の約2560億円。そのうち、AMED（日本医療研究開発機構）対象の予算は、前年と同額の1,263億円。2017年度科研費の予算は、2016年度比11億円（0.4%）増額の2,284億円。削減が続いていた国立大学法人運営費交付金は1兆970億円で、2016年度比25億円（0.2%）の増額。また、2017年度から順次、科研費の制度が変更される。

科研費の予算額・助成額の推移（単位：億円）



国立大学法人運営交付金予算額の推移（単位：億円）



2018年事業環境について

企業研究費動向

医薬品企業関連においては、再生医療事業等の新規事業などに取り組む化学・素材関連等の異業種参入企業数の増加、大手製薬やバイオ企業による有望ベンチャー等へのM&A活動の活発が予想されるが、基礎研究分野の資金投資は微増から横ばい傾向が継続すると予想。

競合会社

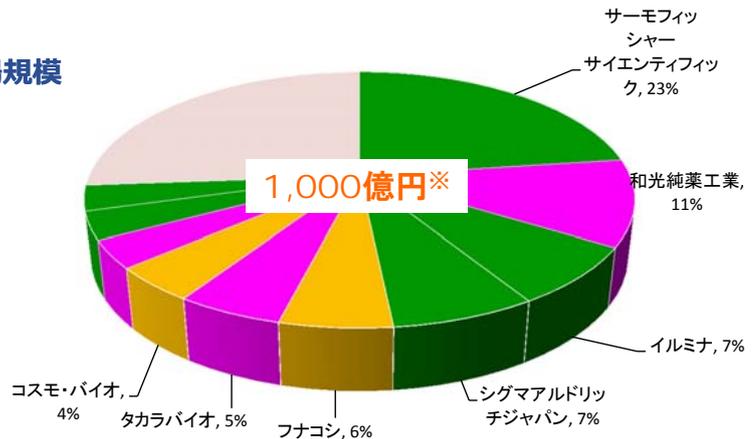
市場の伸び悩みに伴い、シェア獲得のための価格競争は継続。

ライフサイエンス研究用試薬の市場規模

◆競合会社のパターン◆

- 1 海外企業の日本法人
- 2 大手企業の子会社・部門
- 3 商社

※矢野経済研究所調べ



2018年事業環境について

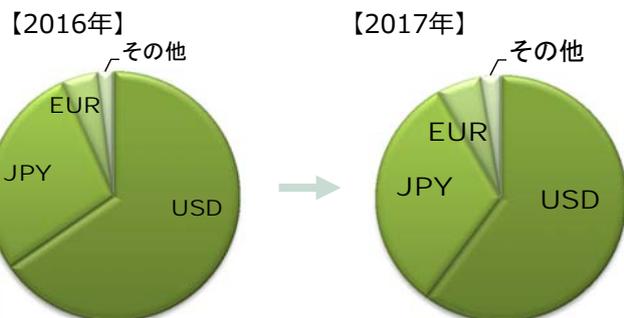
為替相場



- ・為替変動により利益に影響 (円安では仕入原価・コスト高)
- ・2017年は為替変動の少ない1年であった

平均為替レートの推移 (円/ドル)

2014年	2015年	2016年	2017年	2018年 (計画)
106円	121円	111円	112円	115円



4. 2017年の取り組み成果と 今後の取り組み

www.cosmobio.co.jp

2017年からの取り組み(3ヶ年計画)



経営ビジョン

『生命科学の研究者に信頼される事業価値を高める』

重要課題

研究者から信頼を戴く

既存事業基盤の強化

新たな事業基盤の創出

企業価値の向上

2017年からの取り組み（3ヶ年計画）

既存事業基盤の強化

商社として

情報力

情報の即時発信
製品の性能
法令・納期

製品力

特長のある商品・サービス
適正在庫、納期短縮

提案力

課題解決型営業の強化
ユーザー密着型の
営業体制

メーカーとして

開発力

自社製品・サービス
産学官連携の強化

新たな事業基盤の創出

- 新規事業の創出 – 従来とは異なる成長分野を積極的に開拓
- 資本・業務提携 – 競争力の維持・強化、事業拡大、コスト削減

企業価値の向上

- 業務効率化
- 人事評価制度改革
- リスク管理
- CSR活動

活動トピックス

既存事業基盤の強化

商社として

- エンドユーザー営業訪問強化
- 抗体百科リニューアル
- 海外販売の拡大

メーカーとして

- 札幌事業所稼働 p.23
- 自社ブランド製品・
受託サービスの開発 p.25

新たな事業基盤の創出

- プロテインテック・ジャパン活動活発化
- PF社との業務提携 p.24
- H社への出資
- ペプチド合成・抗体作製サービス事業 p.24
- F社への出資
- ヒト インターフェロンβほかタンパク質製造 p.23

企業価値の向上

- 業務効率化
- 人事評価制度の改定（2018年より）

札幌事業所稼働（2017年10月）

①従来の初代細胞製造事業、②2016年に新たに加わったペプチド・抗体事業、③2017年より実施の鶏卵を用いたゲノム編集技術によるタンパク質製造、に加え、今後のさらなる事業の拡大に備えるため、開発・製造拠点の統合・拡張を実施。



札幌事業所の外観

インターフェロンβ製造

- 鶏卵をバイオリクターとしたゲノム編集技術によるタンパク質の製造
- 2017年8月に産総研および農研機構より製造実施許諾を受け、ヒトインターフェロンβ製造を目指す
- 現在は、製造方法を確立、2018年下期頃にまず試薬として販売開始予定

ペプチド合成・抗体作製事業（2016年12月）

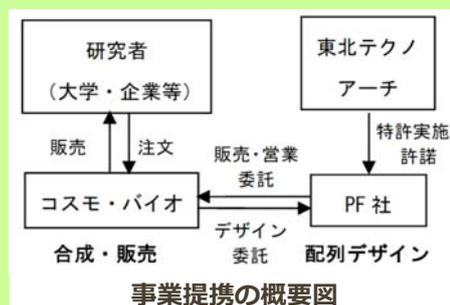
- 2016年12月より事業開始
- 新規にペプチド合成装置を導入
- 現在、当初目標を超える売上を達成しており、2018年以降も引き続き売上貢献を目指す
- 2017年12月、ペプチド合成サービスの内容拡充のための業務提携



ペプチド合成装置

【Proteomedix Frontiers社との業務提携】

- 2017年12月提携
- AQUAペプチドの配列デザインから合成までの一貫サービスが可能に
- 2018年春よりサービス開始



2017年の導入製品・サービスの一例

<エクソソーム研究分野>

- ウシ ミルクエクソソームの発売（8月）、その後ELISA・抗体をシリーズ化（12月）

<周辺機器>

- HIENAIマットのリニューアル（10月）

<顧客ニーズをとらえた受託サービスを導入>

- 遺伝子強制発現細胞株作製サービス導入（9月）
- 他、新規受託サービス（海外・国内メーカー）導入40種類以上／2017年

【エクソソームとは】

- 直径40～150nm程度の小胞
- 細胞から細胞の外に分泌され、血液などを介して遠く離れた細胞まで情報を伝える

【エクソソームの利用】

- エクソソーム内に治療用の薬剤を搭載し、標的細胞や臓器に薬剤を届けるDDSツールとしての応用が期待されている
- エクソソームの特徴を活用して病気の診断を簡単かつ確実にできる技術の研究・開発が進んでいる



HIENAIマット

今後の取り組み

商社かつメーカーとして研究者をサポート

3ヶ年計画を継続し、将来に向けた取り組みを展開。

将来のためにいまやるべきこと

- ✓ 既存の商社としての機能の品質を保ち、さらに向上させる
- ✓ 利益率の高い商品・サービスの比率を高める
- ✓ 「自らによるサービス+導入サービス」の比率を高める
- ✓ 「自らによる製品」の比率を高める（利益確保、為替に左右されない収益構造の確立）
- ✓ COSMO BIO USAをはじめとする海外販売の拡大 他

商品検索システムを2018年度内にリニューアル予定

5. 決算の概要および業績予想について

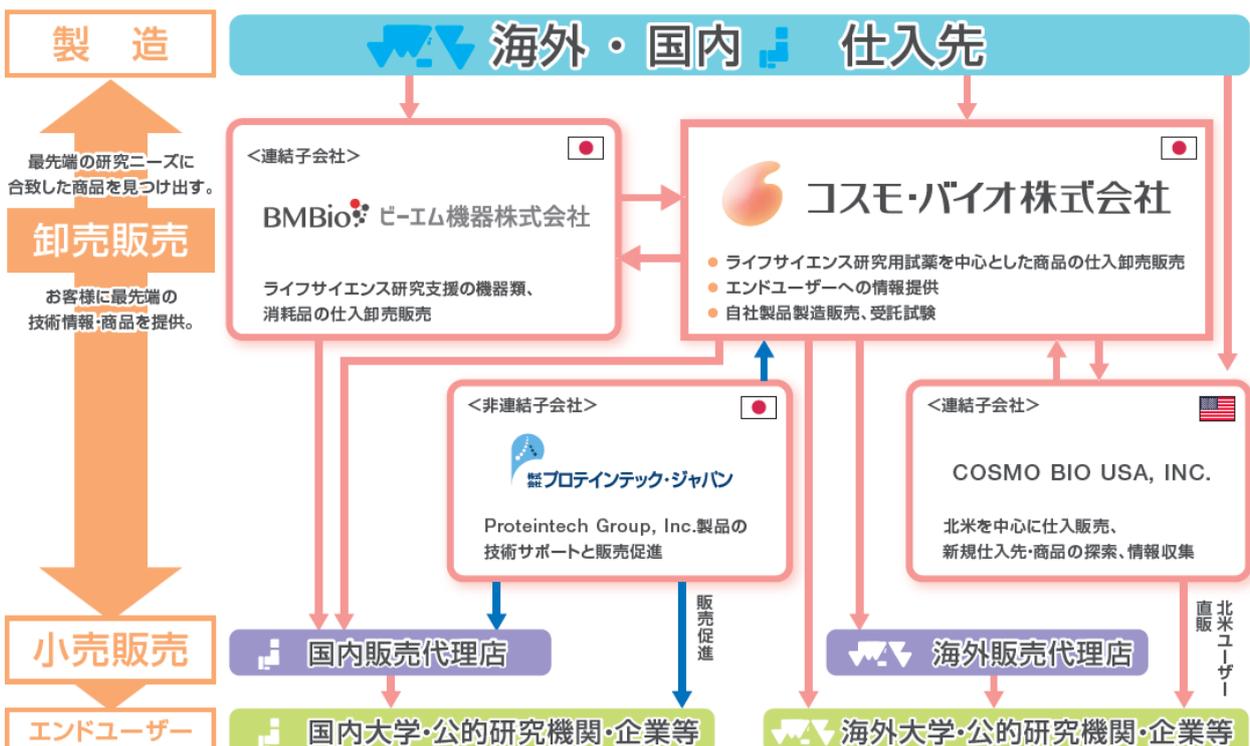
www.cosmobio.co.jp

© 2018 Cosmo Bio Co., Ltd.

27

グループ会社

人と科学のステキな未来へ
コスモ・バイオ株式会社



© 2017 Cosmo Bio Co., Ltd.

28

連結決算対象会社について

① ビーエム機器株式会社 (2010年より連結開始)



事業内容：ライフサイエンス研究用の機器類、消耗品の輸入および国内販売

コスモ・バイオが研究用試薬を、ビーエム機器が研究用機器・器材・消耗品を扱うことで、試薬と機器両面からの研究サポートを実現。

② COSMO BIO USA, INC. (2018年より連結開始)



事業内容：北米を中心とした新規商品・仕入先の探索および仕入販売・販売促進

コスモ・バイオの仕入先（北米）の探索のほか、コスモ・バイオの輸出品、COSMO BIO USA 独自の仕入先商品の米国ユーザーへの販売を行う。

連結業績ハイライト

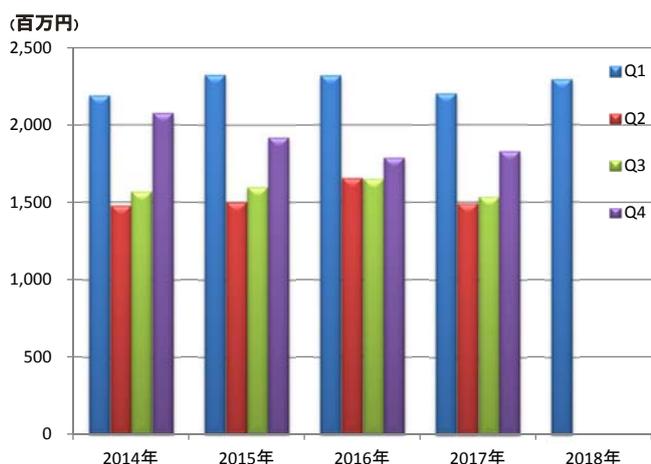
(金額単位：百万円)

	2017年第1四半期	2018年第1四半期	前年同期比増減
売上高	2,205	2,296	4.1%
売上総利益	804	818	1.7%
営業利益	238	244	2.5%
経常利益	232	274	18.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	144	177	22.5%

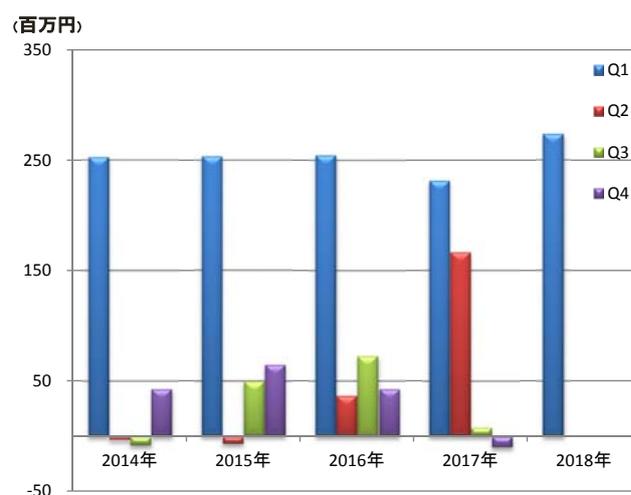
	2017年12月末	2018年3月末	増減額
総資産	8,126	8,529	403
純資産	6,838	6,993	155
自己資本比率	78.5%	76.5%	

四半期別動向（売上高、経常利益）

売上高



経常利益



【売上高】従来の四半期別売上高の傾向は、Q1で最も多く、Q2以降階段状に上がってくるパターン。近年、政府予算の一部繰り越しができるようになり、この傾向も緩やかになっている。

2016年下期に複数仕入先との取引終了があり2017年は苦戦。

【経常利益】従来の四半期別経常利益の傾向は、Q1で最も利益を稼ぎ出す構造。

2017年Q2は計画外の営業外収益が計上され（投資事業組合運用益+143百万円）利益大幅増。2017年下期はシステム投資の減価償却、在庫評価の適正化で利益減少。

2018年12月期の連結業績見通し

(金額単位：百万円)

	17/12月期 実績	18/12月期 予想	対前年比	
			増減額	増減率
売上高	7,068	7,500	431	6.1%
営業利益	193	195	1	1.0%
経常利益	397	245	△152	△38.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	237	150	△87	△37.0%

平均為替レート	17/12月期 実績	18/12月期 予想
円/USドル	112円	115円

2018年12月期より、海外子会社であるCOSMO BIO USA, INC.を連結の範囲に含めます。

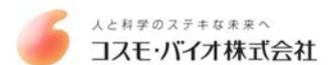
売上高：積極的な営業活動、自社製品・サービスの売上増により、一昨年水準の売上への回復を見込む。

営業利益：仕入原価の増加を見込み、また販管費においてIT投資等を積極的に実施する予定。

6. 株主還元

www.cosmobio.co.jp

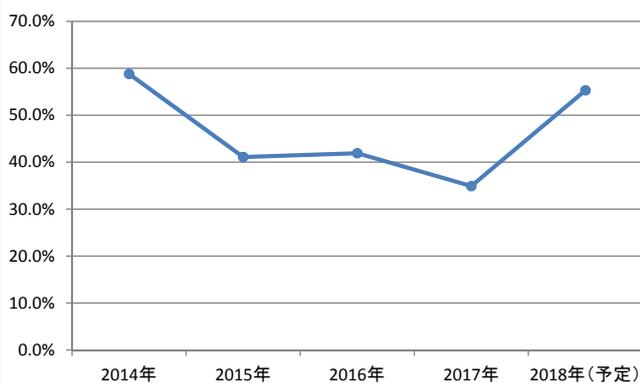
配当について



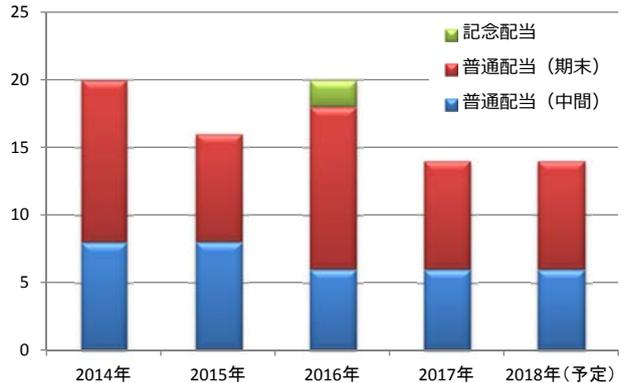
	1株当たり配当額		
	中間	期末	合計
2018年 12月期	6円 (予定)	8円 (予定)	14円 (予定)

2018年は、2017年と同額を見込んでおります（連結配当性向（予想）は55.3%）。

連結配当性向の推移



1株当たり配当額の推移



- 本資料を作成するに当たっては、正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保障するものではありません。
- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述部分は、当社が本資料作成時点において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、リスクや不確実性を含んでおります。実際の業績は、様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきくださいますようお願いいたします。
- 本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社株式への投資勧誘を目的としておりません。

《IRに関するお問い合わせ先》
コスモ・バイオ株式会社 総務部
ir-contact@cosmobio.co.jp

当社IRサイト
<http://www.cosmobio.co.jp/ir>

参考資料

主な連結経営指標等の推移

	2013年 平成25年	2014年 平成26年	2015年 平成27年	2016年 平成28年	2017年 平成29年
売上高(百万円)	7,050	7,235	7,357	7,427	7,068
経常利益(百万円)	444	285	373	483	397
親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	313	201	230	254	237
純資産額(百万円)	6,797	6,532	6,378	6,581	6,838
総資産額(百万円)	8,277	8,161	7,790	7,934	8,126
1株当たり純資産額(円)	1,064.59	1,020.56	1,003.87	1,034.90	1,076.35
1株当たり当期純利益(円)	52.82	34.02	38.89	42.93	40.15
自己資本利益率(%)	5.4	3.3	3.8	4.2	3.8
総資産経常利益率(%)	5.8	3.5	4.7	6.2	5.0
株価収益率(倍)*	45.4	43.9	27.6	29.2	27.9
配当金額(単体)(円)	20	20	16	18	14
配当性向(連結)(%)	37.9	58.8	41.1	41.9	34.9
純資産配当率(連結)(%)	2.1	1.9	1.6	1.8	1.3

* 株価は12月期の末日終値

株式の状況(2017年12月末現在)

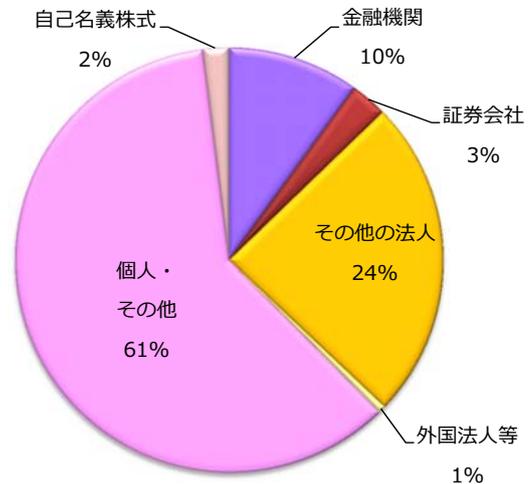
発行可能株式総数	18,361,600株
発行済株式の総数	6,048,000株
自己株式数	120,000株

株主数：5,756名

大株主の状況

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
東京中小企業投資育成株式会社	1,152,000	19.43%
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 コスモ石油口 再信託受託者 資産管理サービス 信託銀行株式会社	576,000	9.72%
コスモ・バイオ従業員持株会	160,000	2.70%
株式会社ヤクルト本社	100,400	1.69%
新日本空調株式会社	89,600	1.51%

所有者別株式分布状況



社会貢献活動

『公開講座応援団』

大学等が行う公開講座に協賛し、ライフサイエンスの面白さと楽しさを伝えるお手伝いをしています



『世界一に行きたい科学広場in宗像』

【講座の一例】

『消化管体験ツアー』

食道から大腸まで、子供が潜り抜けられるトンネル構造模型です



『iGEM生物ロボットコンテスト 参加日本チームへの支援』

米国マサチューセッツ工科大学で毎年行われている「生物ロボット」コンテストに参加する日本の大学チームを、資金援助を通して応援しています

『北海道大学』

【参加されたチームの一例】



『Science Signaling』

米国科学振興協会が発行する“Science Signaling”の日本語サイトを当社ウェブ上で運営しています



株価推移(2017/1/4~2018/5/22)

